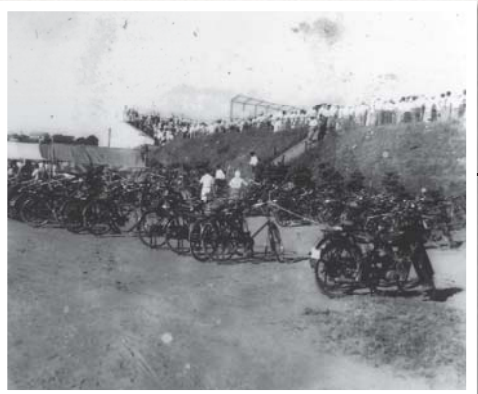


てし

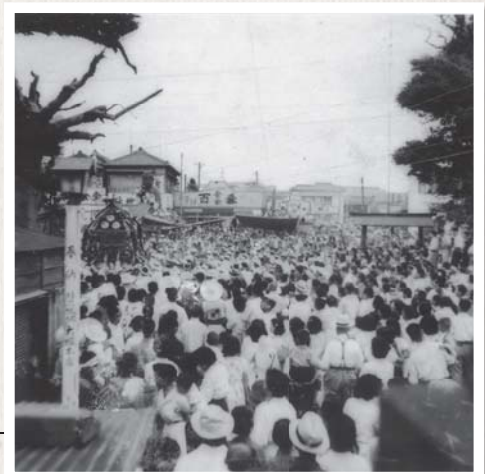
お盆特別企画 なっかし写真館

市民の皆さんからいただいた昭和30年ごろの銚子の写真をご紹介します。教育委員会では市内の昔の風景写真を探しています。

☎生涯学習スポーツ課(青少年文化会館内) ☎(24) 8739



野球観戦に人が押し寄せる銚子らしい1枚。当時の主な交通手段は自転車 (市野球場一塁側から)



かつての大潮祭り。集結する神輿を見物する人たち (飯沼観音)



多くの海水浴客でにぎわう浜辺 (海鹿島海水浴場)



映画館銚子座。空襲を耐えた建物 (馬場町交差点付近)



市民が紹介するジオパークの魅力

世界一の無線電報数 銚子無線局



今月の案内人
藤身隆雄さん

銚子ジオパーク推進市民の会会員
第1級無線通信士

◀ JCS (銚子無線) の
QSL (受信証) カード

銚子に世界一の無線局があったのをご存知ですか？

1908年5月16日、夫婦ヶ鼻(銚子ポルトタワーのある場所)に日本初の無線電信局「銚子無線局」が開設。市民は大歓迎し、大漁節を踊って盛り上がったそうです。当時、夫婦ヶ鼻周辺は海に面した崖で、岬でした。同じ月の27日アメリカシアトル航路に就航中の丹後丸との間でモールス信号の無線通信に成功、海上無線電報を扱った初日になりました。

以後、長波・中波・短波などの周波数で主にモールス信号の通信は銚子(コールサインJCS)と長崎(JOS)が世界をカバ。銚子は24時間体制で無線通信業務を担いました。通信相手は、航行中の日本船や外国船、海上保安庁、病院、気象庁、南極捕鯨船団、南極(JGX)など多岐にわたりました。

1934年に受信所が小畑新町に移転。1960年代には年間132万通の無線電報を扱う世界一の無線電信局に。特に年賀電報はピーク時約18万通を扱う忙しさでした。

しかし、高度経済成長の終わりへと並行し電報通数は減少。1982年海事衛星インマルサットのサービス開始後モールス船は減り続け、1996年3月31日銚子無線は閉鎖。現在、建物は市民センターとして利用されています。

夫婦ヶ鼻には銚子無線局発祥の地の看板があります。

☎銚子ジオパーク推進協議会事務局 ☎(24) 8911

